



発行日
2023年
7月23日

今週のお祈り 聖霊降臨後第8主日(特定11)特禱
恵みと憐れみを賜るとき、殊に全能を現される神よ、豊かな慈しみをわたしたちに与え、あなたが約束されたものを目指して走り、ついに天の宝にあずかる者としてください。主イエス・キリストによってお願いいたします。アーメン

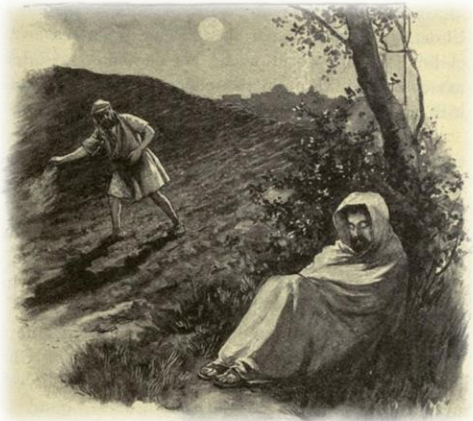
<お知らせ> 2020年4月より副牧師、翌年からは牧師としてこの教会にご奉職された池星熙司祭が、来月から大韓聖公会へ戻られることになりました。7/30(日)が聖パウロでの最後の主日です。池司祭に感謝しお祈りください!

今週の聖書 マタイによる福音書 13:24-30、36-43

24 イエスは、別のたとえを彼らに示して言われた。「天の国は、良い種を畑に蒔いた人に似ている。25 人々が眠っている間に、敵が来て、麦の中に毒麦を蒔いて行った。26 芽が出て、実を結び、毒麦も現れた。27 僕たちが主人のところに来て言った。『ご主人様、畑には良い種をお蒔きになったではありませんか。』

どうして毒麦が生えたのでしょうか。』28 主人は、『敵の仕業だ』と言った。そこで、僕たちが、『では、行って抜き集めておきましょうか』と言うと、29 主人は言った。『いや、毒麦を集めるとき、麦まで一緒に抜くかもしれない。30 刈り入れまで両方も育つままにしておきなさい。刈り入れの時、『まず毒麦を集め、焼くために束にし、麦のほうは集めて倉に納めなさい』と刈り取る者に言いつけよう。』36 それから、イエスは群衆を後に残して家にお入りになった。

すると、弟子たちが御もとに来て、「畑の毒麦のたとえを説明してください」と言った。37 イエスはお答えになった。「良い種を蒔く者は人の子、38 畑は世界、良い種は御国の子ら、毒麦は悪い者の子らである。39 毒麦



を蒔いた敵は悪魔、刈り入れは世の終わりのことで、刈り取る者は天使たちである。40 毒麦が集められて火で焼かれるように、世の終わりにもそうなるのだ。41 人の子は天使たちを遣わし、つまずきとなるものすべてと不法を行う者たちとを御国から集めて、42 燃え盛る炉に投げ入れる。彼らは、そこで泣きわめいて歯をすりするだろう。43 その時、正しい人々はその父の国で太陽のように輝く。耳のある者は聞きなさい。』

聖書からのメッセージ 『毒麦』の意味 司祭 池星熙

今日の福音書の話では農夫が畑に良い種を蒔きました。しかしある日、「毒麦」が混ざっているのをみました。「良い種」は正しい人を言い、「毒麦」は悪い者だと言えるでしょう。この「毒麦」は時には争いを起こして、多くの人々に苦しみと傷を与えたりします。そうならないように、毒麦を抜いてしまったほうがよいかもしれませんが、しかし抜くことは、その時に判断をする、つまり神様の審判があるということです。しかし主はそれをやめさせます。毒麦だけを抜こうとしても、良い種から育った麦まで抜いてしまうかもしれないということです。それで、「刈り入れの時まで、世の終わりまで待ちなさい」という言葉です。判断と審判は神様がなさるといいます。そして主は争いを起こして他人を傷つける人さえ悔い改めるのを待つということです。この言葉は世の中に正しくないことがあっても、それを見て見ぬふりをするという意味ではありません。兄弟姉妹として受け入れて、隣り人として愛そうとするなら、彼らにも悔い改める機会を与えなければならないという意味でしょう。